香川県立中央病院
Kagawa Prefectural Central Hospital
れんけい
題字：松尾信彦書

香川県立中央病院広報誌「れんけい」第62号　発行者／香川県立中央病院　太田 吉夫　編集／広報委員会
〒760-8557　高松市朝日町一丁目2番1号　TEL.087-811-3333　FAX.087-802-1160

中央 information

業務課

防災対策

基幹災害拠点病院として

当病院は県内唯一の基幹災害拠点病院です。災害発生時には入院患者等の安全を確保すると同時に、地域の救護活動の拠点として、被災地からの重症患者の受け入れを行う役割を担っています。そのため、災害発生時の被害を軽減するとともに、初動体制や業務継続のための環境を確保し、災害医療の中心的な役割を担えるよう次のような対策を行っています。

ライフラインの確保・物資の備蓄等

バックアップの充実

電力は、2ルートの引込み回線を確保し、津波・高潮等による建物としての機能不全を避けるため、主電気室を本館2階に設置しています。さらに、本館2階への非常用発電装置の設置に加え、別棟である防災棟4階に非常用発電装置を追加設置し、電源のバックアップを充実させました。発電用燃料は72時間以上を備蓄しています。また、防災棟2階には非常用備蓄庫を設置しています。飲用水は、受水槽・高架水槽に遮断弁を設け、7日分確保可能となっています。通信手段は、電話回線の2ルート引込みの実施に加え、防災行政無線と衛星電話を確保しています。また、多数の患者を受け入れられるよう、災害時のベッド増床に対応できる多床室設計の採用に加え、エントランスホール、講堂等に患者を収容できるスペースを確保し、発電機電源のコンセント、医療ガスアウトレットを設置しています。資機材は、NBC災害対応エアテントや簡易ベッド等を備蓄しています。搬送手段は、空路搬送に対応できるよう、屋上にヘリポートを確保しています。

訓練

職員全体のスキルアップ

毎年、病院内において職員対象に防災訓練を実施し、災害医療に関して職員全体のスキルアップに努めています。また、大規模災害や多傷病者が発生した事故などの現場に、DMAT隊を派遣できるよう、隊員の養成・訓練に努めています。

耐震性強化

震度6強に対応

病院建物は、震度６強に対応できる建物の設計震度を設定し、建物への免震構造を採用しています。また、液状化対策を目的とした地盤改良を実施しています。

津波対策

敷地のかさ上げ

津波対策として、病院敷地を2m程度かさ上げし、敷地周囲には、津波・高潮に対する減衰効果が得られる築山を設け、防潮板を整備しています。また、地下階を設けず、想定を上回る津波の浸水に備え、高度医療機器エリアへの浸水防止など、建物１階の浸水対策を実施しています。

今後も県民の皆様の御期待に応えられるよう、防災対策に取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

診療科紹介

神経内科

神経内科医長　森本 展年

神経内科という科はイメージがわきにくい方もいるかと思います。心療内科や神経科と名前が似ているのでややこしい言われることもあります。神経内科は「脳や脊髄、神経、筋肉の病気をみる内科」です。最近は脳神経外科の知名度にあやかり「脳神経内科」と改名する医療機関が増えているようです。さて、今回は神経内科の紹介記事として、画像診断の話題に触れたいと思います。

【図１】2014年２月に保険適用となったドパミントランスポーターシンチグラフィー（ダットスキャン®）をご存知でしょうか。ダットスキャン®はSPECT装置で撮影される画像の一つです。このダットスキャン®は本態性振戦とパーキンソン病の鑑別など症状がまぎらわしい疾患の鑑別にきわめて有用です。また、パーキンソン病だけでなく、レビー小体型認知症、進行性核上性麻痺、大脳基底核変性症の一部、多系統萎縮症の一部など診断の難しい変性疾患の診断においても重要な情報をもたらします。

【図２】近年、VBM（voxel-based-morphometry）の手法を応用したVSRAD®など様々な画像解析ソフトが普及しています。通常のMRIだけでは脳萎縮は判定があいまいになりがちですが、VSRAD®の結果を用いると健常高齢者とアルツハイマー病患者の違いがはっきり表示され、特に初期の認知症の診断に有用です。

【図３】神経疾患の鑑別ではMRIの撮り方の工夫も重要です。これは多発性硬化症の患者さんの頭部MRI（FLAIR）画像なのですが、通常の水平断（図３左側）だけを見ると虚血性変化として見過ごされてしまいそうです。そこで矢状断の画像（図３右側）を追加すると脱髄疾患の特徴を示す脳梁病変が確認でき、多発性硬化症の可能性に気付くことができます。多発性硬化症は再発予防薬として、従来のインターフェロンβに加え、フィンゴリモド、ナタリズマブなどの強力な再発予防効果を示す治療薬が使用できるようになっており、早期発見により患者さんの長期予後が大きく改善される可能性がある疾患のひとつです。

しっかりと地域のみなさんのお役に立てる診療科を目指し、診療の質の向上に努めておりますので、今後とも神経内科をよろしくお願いします。

図1. ドパミントランスポーターシンチグラフィー

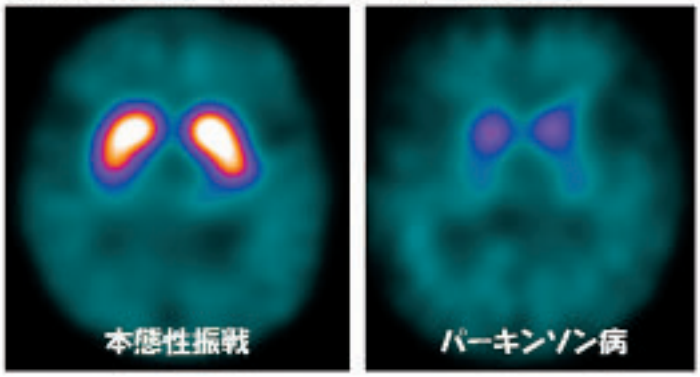


図2. 頭部MRI　VSRAD解析

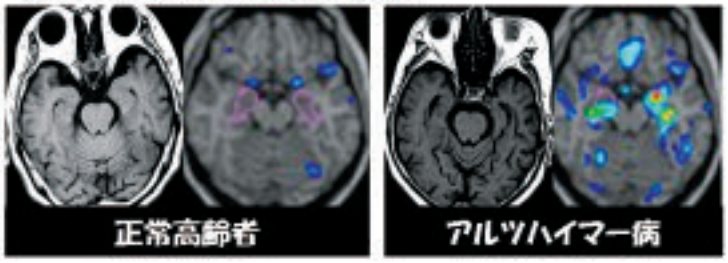
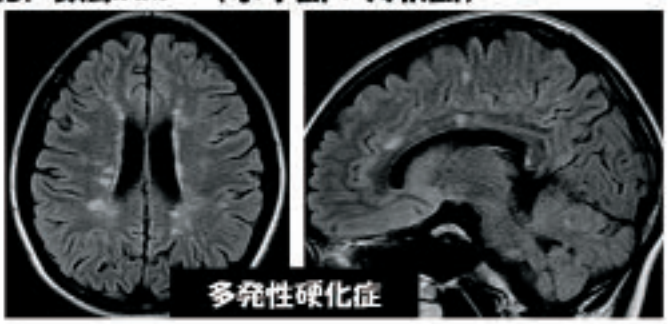


図3. 頭部MRI　（水平断＋矢状断）



中央NEWS

医療セミナー

5/28 を開催しました

本院講堂において、「泌尿器科におけるロボット支援手術の現状」と題して、医療セミナーを開催しました。

司会は川上院長補佐、講演は泌尿器科の黒瀬部長でした。参加者は医師等42名で、院外からも11名の先生方にご出席いただきました。

今後も、当院における医療を紹介するため、興味ある様々なテーマを取り上げて、皆様のお役にたつ医療セミナーを積極的に開催していく予定です。ぜひご参加ください。

臨床心理士ご紹介

臨床心理士　矢野 裕子

当院の臨床心理士は心理検査、心理面接（カウンセリング）、かんわ支援チームの活動を中心として、それぞれの患者さんに必要なサポートをしています。

心理検査としては、神経内科での認知機能検査、脳外科などの高次脳機能評価、小児科やリハビリ科での知能・発達検査など、診断の補助や治療の効果を見るための検査を行ったりしています。

心理面接は患者さんやそのご家族を対象に行っています。入院中の患者さんはベッドサイドや病棟の面談室にうかがってお話しさせていただきます。外来患者さんについては有料になりますが、完全予約制の守られた空間でお話しいただくことができます。幼いお子さんやことばを介しての面接が難しいと感じる患者さんに対しては絵を描いたりゲームなどの遊びを通しての心理面接も行います。

病棟10階から見える癒しの風景

その他、気になる患者さんについてスタッフと一緒に考えたり関わり方の注意点についてアドバイスさせていただくなど、各科の医師やスタッフと協力しながら患者さんの心理支援を行うリエゾン心理士としての働きをしています。

ボランティアさんご紹介

中央病院では高校生以上のボランティアの登録を行っています。現在６名が患者案内や再来機補助を中心に活動しています。また、春休みや夏休みには高校生の参加もあります。

新病院に移転した当時は、多くの患者さんが来院され非常に混雑しました。院内の案内表示が少なく位置が分かりにくかったり、外来ブロック制となり何科がどこのブロックにあるのか分からなかったり…。最前線で患者対応に奮闘しました。現在は流れもスムースになり大分落ち着きました。

患者さんの役に立ちたいと思う気持ちが人一倍強いボランティアさん達…「元患者だったので、その時の経験を活かしたい。」「患者の気持ちに寄り添って接してあげたい。」「言葉遣いや挨拶にはとても気をつけている。」「ストレスを持ち帰られることのないように。」という気持ちで患者さんに接しています。患者さんからは、「あなたがいるから助かるわ。」と言うお声もいただいています。今後、もっとボランティア活動が広がり「患者さんに近い病院」になればいいなと思います。

胸部CT検査のご案内

胸部CTについて、外部医療機関の先生方からの検査依頼を直接お受けしています。胸部単純レントゲン写真で異常所見があると思われるが自院でCT設備がない場合など、お気軽にご依頼ください。CT読影は、放射線科の読影専門医と、呼吸器内科、呼吸器外科の専門医が行い、治療方針も含めて検査の結果は、後日、紹介元の医療機関、主治医の先生に郵送します。患者さまへの結果の報告は紹介医の先生で行っていただく必要がありますが、月～金まで予約枠を設けており、呼吸器内科、呼吸器外科の外来診察予約を直接取るよりも簡便です。

検査は、すべて予約が必要となっていますので、専用の診療情報提供書（胸部CT検査依頼用）に必要事項を記載し、FAXにて地域連携室までお申し込みください（診療依頼FAX用紙とは別になっています）。

病院薬剤師は患者さんに安全と安心を提供します

病院薬剤師の仕事

薬剤部部長　宮川 真澄

院外処方になって、「病院の薬剤師はどんな仕事をしているの」と尋ねられることがあります。そんな時、病院薬剤師の仕事は患者、住民、国民の皆様にはっきり見えていないんだなあと少しさびしくなります。そこでこのコーナーでは病院薬剤師の仕事を紹介できればと思います。

県立中央病院は、県の基幹病院として、高度急性期医療に特化し、がん・心疾患・脳血管疾患など高度かつ先進的な医療に重点的に取り組んでいます。治療に使用する薬剤も日々高度化し、最先端の新薬や特殊な薬剤も多く、専門的知識を有する薬剤師の管理が必須です。これらの薬剤を病院薬剤師は365日24時間体制で患者毎に処方内容をチェックし提供しています。また、増加する高齢患者はしばしば複数の疾患を抱えており多種類の薬で治療を受けています。病棟担当薬剤師がベッドサイドに伺い他院で処方された持参薬も含め患者さんに使用されているすべての薬について、年齢や体格、臓器機能に応じた薬剤選択、薬用量、相互作用、重複投与などをチェックする薬学的管理を行っています。薬剤の使用前には注射薬も含めたお薬の説明、投与中や投与後も治療効果や副作用などのチェックを行い、常に「本当にこの患者さんにこの薬物治療は最適か」を念頭に患者さんの利益を中心においた薬学的患者ケアを行っています。

病院薬剤師が、今、熱心に取り組んでいる活動に、「プレアボイド」があります。「プレアボイド」とは、薬剤師が薬学的ケアを行うことで患者の不利益（副作用、相互作用、治療効果不十分など）を回避あるいは軽減することです。患者さんに薬学的ケアを実践した結果、副作用を回避できた、早期に発見したために大事に至らなかったなどの症例をプレアボイド報告として収集し院内外に報告し共有化、薬物療法の安全性を守ることに寄与しています。

次回からは具体的なプレアボイド事例の紹介を行っていきたいと思います。

まかしまい ご紹介

昨年秋、中央病院玄関前広場に「ふくろう」の彫像が設置されました。高松市庵治町を制作拠点とし、世界的に活躍されている石の彫刻家、流政之先生からご寄贈いただいたもので、黒みかげ石でできています。作品名を『まかしまい』といいますが、『まかしまい』とは香川の方言で「まかせてください」という意味です。また、「ふくろう」はギリシャ神話では知恵と信頼をつかさどる鳥とされ、東洋では幸運の鳥と呼ばれています。

医師の人事 異動

転入

（7月1日付）

山野井 友昭 泌尿器科

岡山大学出身（平成25年卒）

趣味／テニス

地元である香川に帰ってきました。

色々とご迷惑をおかけすることもあると思いますが、頑張りますのでよろしくお願いします。

転出

（6月30日付）

- 眞鍋　大輔（泌尿器科）
- 益田　智章（心臓血管外科）

医療セミナーの開催予定

7月16日に台風のため延期になっていました医療セミナーを、改めて開催することとなりましたのでお知らせします。

▶日時：平成27年8月20日㈭　19時～

▶場所：香川県立中央病院１階講堂

▶テーマ：「大動脈弁狭窄症の血管内治療（TAVI）ー患者選択と治療ー」

▶講師：当院心臓血管外科部長　末澤　孝徳

お申し込みいただいていた方々にはご迷惑をおかけし、申し訳ありませんでした。多数の先生方のご参加をお待ちしています。